

アルビレックス・レーシング・チーム

CAR No.34

MOTOR FREAK

深村 匠

アルビ MOTORFREAK KK-SED

Albirex-RT

PRESS RELEASE

2013/12/8

2013 S-FJ 日本一決定戦

CAR No.35

Beyond

神村 悠太

ビヨンドアルビ RT みなみ調剤薬局 KK-S

CAR No.36

M.I.D Japan Inc.
Mitsui Impress Development

湊 雅之

アルビ RT 玉三郎 Dream.ED

CAR No.37

**MAKE
WINNER**

早坂 祐希

アルビメイクウィナー-GIA

CAR No.61

M.I.D Japan Inc.
Mitsui Impress Development

太田 達也

玉三郎アルビ NAVYAUTO ミスト制動屋

12月7日(土)予選 8日(日)決勝 鈴鹿サーキット 1 LAP=5.807km 出走：37台

決勝結果：太田選手 4位入賞

深村選手 22位

湊選手 13位

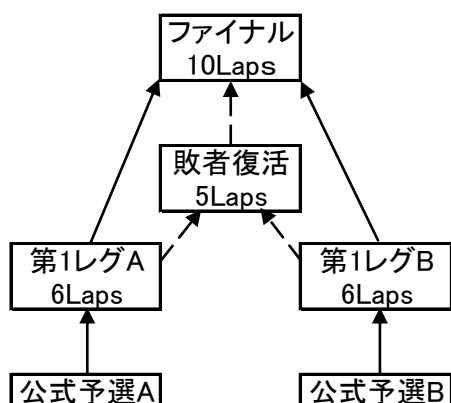
神村選手 25位

早坂選手リタイヤ

**全国の猛者の集う日本一決定戦！
太田選手が見事4位入賞を達成！！**



●2013スーパーFJ日本一決定戦の流れ



●ファイナル 30台

- ・第1レグより各10台(計20台)
- ・敗者復活より10台

●敗者復活 19台
・第1レグ不通過者

■12月7日(土) 予選

<A グループ予選>

天候：晴れ コース：ドライ 気温：12℃ 湿度：52% 路温：10℃

出走：深村選手 早坂選手 太田選手 全 20 台

9時予選開始。上位5台がコースレコードを更新する好タイムをマークする中、太田選手は6周目にベストラップを記録。しかし、それ以降はタイムアップできず、2番手とはわずかに0.260秒差で3番手となった。早坂選手、深村選手は目標タイムには届かず12番手、17番手となった。

<B グループ予選>

天候：晴れ コース：ドライ 気温：12℃ 湿度：49% 路温：11℃

出走：神村選手 湊選手 全 17 台

9時35分予選開始。こちらのグループも上位2台はコースレコードに迫るタイムをマークする中、自身のポジションとコンディションに対する合わせ込みがうまくできず、湊選手はトップから1.7秒差で8番手、神村選手は14番手で終えた。

■12月7日(土) 第1レグ

<A グループ第1レグ>

天候：曇 コース：ドライ 気温：12℃ 湿度：47% 路温：12℃

11時51分スタート。フォーメーションラップ後に他車がエンジン停止によりスタートデイレイとなり、再度フォーメーションラップを行い1周減算の5周でのレースとなる。

3番グリッドスタートの太田選手はスタートがうまくいかずに1~2コーナーの間で4位に後退してしまう。予選から決勝まで同じタイヤを使用しなければならないため、ここは

無理に攻めることはせずにタイヤを温存し、そのまま4位でファイナル進出を確定させた。早坂選手はスタート直後のペースが上がらない中で2コーナーまでに2つポジションを落としてしまい、そのまま14位。深村選手はうまくスタートを決め1つポジションアップ、その後さらに1台抜くも15位に終わり、早坂選手と共に敗者復活へ回る事となった。

<B グループ第1レグ>

天候：晴れ コース：ドライ 気温：12℃ 湿度：48% 路温：14℃

12時29分スタート。8番手スタートの湊選手は終始6番手とバトルを続けるも、パスすることはできず7位でフィニッシュ、ファイナル進出を決めた。14番手スタートの神村選手は他車のトラブルにより1つポジションを上げたものの13位となり、敗者復活からファイナル進出を目指す。

■12月7日（土）敗者復活

天候：晴れ コース：ドライ 気温：13℃ 湿度：43% 路温：10℃

15時37分スタート。規定により神村選手6番手、早坂選手7番手、深村選手9番手からのスタートとなる。

早坂選手はポジションキープでスタートすると、1周に1台のペースでかわしていきファイナルラップには3位に浮上。そのまま2位にアタックを仕掛けていくが、スプーンで前車と接触し、フロントウイングを曲げてしまう。しかし、そのまま前車のスリップに入ると130Rを過ぎ最終シケインでかわして2位に浮上。そのまま2位でチェッカーを受け、1位車両がジャンプスタートのペナルティのため繰り上げ1位でファイナル進出を決めた。

深村選手はスタートして間もなく神村選手に追いつくと、神村選手はペースの速い深村選手に進路を譲る判断をし、7番手に浮上。最後は8番手車両に迫られるも逃げ切り、ファイナル進出を決めた。

神村選手は6番手グリッドからスタート直後の1~2コーナーで立て続けに抜かれてしまう。その後は11番手と終始バトルとなり、ファイナルラップシケイン進入で前車がブレーキミス。その隙を突いた神村選手はインに飛び込み11番手に浮上してそのままチェッカー。前車のペナルティにより10位に繰上げとなり、ファイナル最後尾グリッドを獲得した。

■12月8日（日）決勝

天候：晴れ コース：ドライ 気温：12℃ 湿度：32% 路温：22℃

12時49分決勝スタート。規定により太田選手7番手、湊選手14番手、早坂選手21番手、深村選手27番手、神村選手30番手スタートとなる。

スタート直後の混乱もなく、太田選手はオープニングラップから順調にポジションを上

げていきバックストレートまでに3台かわすと、130Rでさらに1台かわして3位に浮上する。その後は1・2位、3・4位で接近戦が展開される。しかし5周目、スプーンで車がスライドしてしまうとその後の130Rで追い抜きを許してしまい4位に後退。そこからペースが上がらなくなってしまい、3位奪回はならず2年連続の4位フィニッシュとなった。

湊選手は終始湊選手を先頭とした13位争いを繰り広げる。特に14番手とは每周順位を入れ替える展開となったが、最後は競り勝ち13位チェッカーを受けた。

早坂選手は21番手グリッドからスタート直後にポジションを落としてしまうと、オーブンラップのスプーン入り口で前車がハーフスピン。早坂選手からは前車で死角となっているところで横向きとなると、ハーフスピンした車両に後続車が側面から衝突し2台がクラッシュ。そこでようやく早坂選手の視界が開けた瞬間、クラッシュした車両の左フロントと早坂選手の左フロントが接触。何もできないまま左フロントとナックルにダメージを負ってしまいグラベルにストップ。無念のリタイヤとなった。

27番手スタートの深村選手はそのクラッシュの混乱を避ける際に前方グループに遅れをとってしまい、終始単独での走行となり22位。最後尾スタートの神村選手はクラッシュの混乱によりそこからさらに遅れをとってしまい、25位となった。

○深村選手コメント

決勝はクラッシュのためずっと単独の走行になってしまい、もうちょっと周りとからむことができたらというのが率直な感想です。今年はF1サポートレースや初めての日本一決定戦出場と、たくさんの経験を積むことができたので、今後活かしていきたいと思います。チームの皆さんには1年間しっかりとサポートして頂き感謝します。ありがとうございました。

○神村選手コメント

初めての日本一決定戦になりました。運もあってギリギリでファイナルに進出できましたが、まったく歯が立たずただただ悔しかったです。今年は去年以上に中身の濃い1年になりました。今年の経験を活かして次につなげていきたいと思います。支えてくれた皆さん、そしてチームの皆さん、今年1年ありがとうございました。

○湊選手コメント

結果的には去年と同じ順位で悔いの残る結果になりました。シリーズ戦は茂木と東北にフル参戦し、東北シリーズでは優勝できて嬉しかったです。ただ、目標としていた東北シリーズチャンピオンをわずかの差で逃してしまいました。今年1年でたくさんの経験を積むことができたので、今後活かしていきたいと思います。最後に、サポートして頂いた皆さん、チームの皆さんには感謝しています。ありがとうございました。

○早坂選手コメント

決勝はとても残念な結果となりました。自分ではどうすることもできませんでした。た

だ、今年は表彰台に上がることができてよかったです。表彰台に上がるだけじゃなく、勝てるドライバーになれるよう頑張ります。今年もチームの皆さんにたくさんのことを教えてもらって、周りのサポートもあって本当にありがとうございました。

○太田選手コメント

第1レグでポジションを落としたのが最大の敗因です。2年連続の4位入賞ということで、表彰台に立ちたかったです。今年はF1サポートレース参戦や4回の優勝、そして富士のシリーズチャンピオンが獲得できて飛躍の年になりました。サポートして頂いた皆さん、そしてチームの皆さんには今年1年本当にお世話になりました。ありがとうございました。

○中村監督コメント

各シリーズのシリーズチャンピオンや上位ランカーの集う日本一決定戦に、アルビレックスレーシングチームとして5名もの選手を送り出したことに関して、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

深村選手は日本一決定戦を含め、この1年間で大きく成長致しました。来年度期待の持てるドライバーの1人です。神村選手については、敗者復活戦で最後の最後に1台パスして、ギリギリファイナルに出場できました。この粘りをどんどん見せていてもらいたいです。湊選手については、トラブルに見舞われ波に乗り切れないウィークとなってしまいましたが、集中力を切らさずバトルで競り負けなかった点は評価できます。早坂選手は敗者復活に回ったものの、ファステストをマークしてトップで帰ってくることができました。決勝は不運な形でのリタイヤとなりましたが、より安定感を身につけ次のステップにつなげてほしいと思います。太田選手に関しては一時3番手を走っていただけに、表彰台を逃したのは悔しいところです。ただ、トップ3と遜色ない速さを証明してくれました。

来年はシリーズチャンピオン獲得と日本一決定戦での優勝を目指してチーム一丸となって努力して参ります。本年度は多大なるご支援を頂き誠にありがとうございました。







P PLUS  Nankai Plus.Co.,LTD.

鈴木会計
埼玉・川口
<http://www.tknf.com/sds>



Moty's 新潟日報

たわら屋



- ・ Zip Auto ・ KAISHIN AUTO ・ 榎本自動車整備工場 ・ 山田モーター
- ・ 東栄ボディー ・ 新潟オートシステム ・ Car Factory 雅美 ・ 堀モータース
- ・ みがき屋エンマ ・ Power Station ・ カイツ自動車 ・ トップオート ・ エムズ